

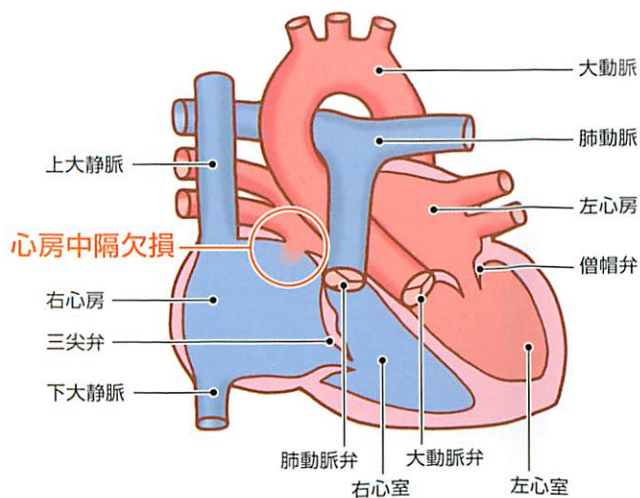
心房中隔欠損とは、左心房と右心房を仕切る心房中隔に欠損孔と呼ばれる穴が開いている疾患です。

通常、心臓から肺に送り出される血流量と心臓から動脈を通り全身に送り出される血流量は等しくなります。この疾患の場合、欠損孔があるため左心房から右心房へ血液が流入し、右心系(右心房、右心室、肺)の血流量が増加します。

そのため右心系の負担が増え、肺がうっ血した状態になります。この結果、**疲れを感じやすい、息切れしやすい、正常な成長が妨げられる、風邪や肺炎などの呼吸器感染症にかかりやすくなる**などの症状があらわれます。また欠損孔が大きい場合、心不全へ進行することもあります。

重症の場合、新生児や乳児期に症状があらわれ、手術が必要となります。しかしほとんどの場合、成長するまで自覚症状がなく(または軽く)、その症状は患者さんによって異なります。新生児期に症状があらわれない場合でも、年齢を増すごとに動悸や息切れ、心房細動などの症状があらわれ、治療が必要となります。

また、長期にわたって肺へ過剰な血液が流れ込むため、肺高血圧症の危険性もあります。



心房中隔欠損(ASD)の心臓

## AMPLATZER® 心房中隔欠損閉鎖治療を受けられる病院

2010年7月現在

- 【新潟県】 新潟市民病院
- 【埼玉県】 埼玉医科大学国際医療センター  
埼玉県立小児医療センター
- 【東京都】 東京女子医科大学病院  
東京大学医学部附属病院\*  
榊原記念病院  
東京都立小児総合医療センター\*
- 【神奈川県】 神奈川県立こども医療センター  
昭和大学横浜市北部病院
- 【長野県】 長野県立こども病院
- 【千葉県】 千葉県こども病院
- 【静岡県】 静岡県立こども病院  
聖隷浜松病院
- 【愛知県】 社会保険中京病院
- 【岐阜県】 岐阜県総合医療センター
- 【三重県】 三重大学医学部附属病院\*
- 【大阪府】 国立循環器病研究センター  
大阪市立総合医療センター
- 【兵庫県】 兵庫県立こども病院  
兵庫県立尼崎病院
- 【岡山県】 岡山大学病院
- 【広島県】 広島市民病院
- 【愛媛県】 愛媛大学医学部附属病院
- 【福岡県】 九州厚生年金病院  
聖マリア病院

※ 2010年治療認可予定施設

質問または心配な事があれば医師にご相談ください。

# 心房中隔欠損の カテーテル治療



ガイドブック

AMPLATZER® ASD Closure  
A Patient's Guide



## 治療に用いられる医療機器の説明

治療には、アンブラッツァー心房中隔欠損閉鎖システムを使用します。

### <アンブラッツァー心房中隔欠損閉鎖システムの構成>

オクルーダーとデリバリーシステムにより、構成されています。

オクルーダー(以下 閉鎖栓と言います)：  
心房中隔欠損を閉鎖します。



閉鎖栓は、ニッケル・チタン合金(ニチノール)製の細いワイヤーをメッシュ状に編みこんだ傘のような構造となっています。

## 適 応

アンブラッツァー心房中隔欠損閉鎖システムは、閉鎖栓を経皮的に胸部を切開することなくカテーテルを用いて心房中隔欠損を閉鎖するための医療機器です。このシステムを用いた心房中隔欠損の閉鎖治療は、一般的に下記の患者さんが対象となります。

- <1> 超音波画像(心エコー)検査によって心房中隔欠損が確認された方
- <2> 右心室への過剰な血液流入の臨床的根拠(右心室の容量負荷)が認められる方

## 治療について

治療は心臓カテーテル室で行われます。X線装置、超音波心エコー装置(経食道心エコー装置)で心臓を観察し、心電図モニターで心拍を看視します。

治療の全行程は全身麻酔の下で行われます。麻酔による不快感はありません。

心血管造影用カテーテルを大腿静脈から挿入し、下大静脈を通して心臓まで進めます。右心房、右心室、肺動脈、左心房、左心室の各々の圧と血中の酸素飽和度を測定します。続いて心臓血管造影を行って心房中隔欠損の大きさを測定、撮影します。

適切なサイズの閉鎖栓をデリバリーケーブル(閉鎖栓取り付け機能を有する専用の細いワイヤー)に取り付け、デリバリーシース(閉鎖栓を運搬する細長いカテーテル)に挿入して心房中隔欠損まで運び、閉鎖栓で心房中隔欠損を挟み込んで閉鎖します。

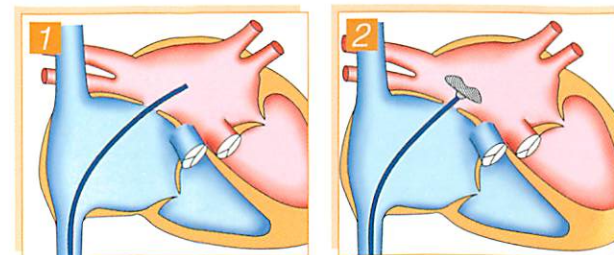
閉鎖栓の位置が適切であり、欠損孔の閉鎖が確実であると判断されたら、閉鎖栓をデリバリーケーブルから離脱します。

デリバリーシステムと経食道心エコーの探触子(プローブ)<sup>※1</sup>を抜去して治療は終了です。治療は、数時間を要します<sup>※2</sup>。

※1: 探触子(プローブ)…超音波発信機

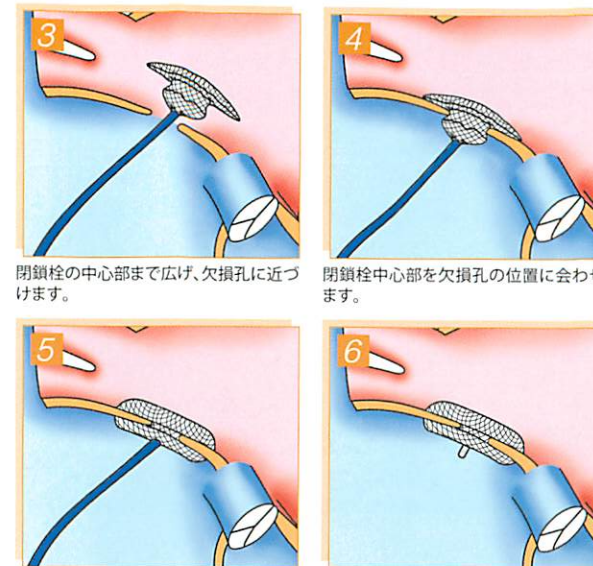
※2: 患者さんの容態、心房中隔欠損の大きさや位置など、個々の患者さんの状態によって異なります。詳しくは主治医にお尋ね下さい。

### <カテーテル治療の概要>



大腿静脈よりデリバリーシースを挿入し、右心房側より欠損孔を通して、左心房へアプローチします。

左心房にあるカテーテルの先端まで閉鎖栓を進め、左心房側のかさを開きます。



3 閉鎖栓の中心部まで広げ、欠損孔に近づけます。

4 閉鎖栓中心部を欠損孔の位置に合わせます。

5 右心房側のかさを開きます。

6 閉鎖栓が確実に留置されたことを確認した後、接続を解除し、治療を終了します。

## 治療後

麻酔から醒め一定時間ベッドで安静にした後、起き上がって歩くことが可能となります(医師の指示に従ってください)。経食道心エコー装置を使用しますので、治療後にのどに痛みが残ることがありますが、数日で軽快します。経過が順調であれば、数日間入院した後、退院となります。治療後は(もしくは治療前より)血液のかたまり(血栓)ができることを予防する薬(アスピリンなど)を約6ヵ月間服用します。

退院前には胸部X線検査および超音波心エコー検査などを行います。この検査は治療後、定期的に外来で実施します。

心房中隔欠損のカテーテル治療は、開胸手術に比べて患者さんの負担が少ないため、短期間で回復することが可能です。



詳しくはWebで

▶ <http://www.amplatzer.jp>